

熱工学ワークショップ 2020 開催報告

第 97 期熱工学部門講習会委員会
委員長 戸谷 剛（北海道大学）

2020 年 10 月 10 日（土）12:00 ～ 14:00（熱工学コンファレンス 2020 初日）に熱工学ワークショップを開催いたしました。本イベントは、2015 年まで熱工学コンファレンスと併催していた熱工学コンファレンス・プレセミナーおよびプレコンファレンスワークショップの経緯を受け、その趣旨を継承した企画として 2016 年の熱工学コンファレンスより実施しております。今回は第 4 回目で、2018 年と同様にランチョンセミナーとして実施いたしました（2019 年は、台風 19 号の接近により中止）。新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、オンラインで実施し、100 名強の皆様にご参加をいただき、お顔を拝見できないのですが、盛況なセミナーになりました。

開催の趣旨としてこれまでは、熱工学コンファレンス 2016 より、産業界を中心とした講師に熱工学に係る技術上の諸課題や熱工学分野の専門家への期待を「熱マネジメント」をキーワードにレクチャー頂いておりました。4 回目となる今回は、ブラックアウトを経験した北海道での開催ということで、「災害発生時におけるエネルギー供給」をキーワードにして、エネルギー供給を統括する行政、エネルギー供給を実際に行っている企業の専門家をお招きして、ご講演およびディスカッション、交流を持っていただくことで、関係者の今後の研究・開発活動の深化・拡大の萌芽となることを目指しました。

ご講演者とご講演題目は、下記の通りです。

長島 正己（北海道経済部環境・エネルギー局環境・エネルギー課）
「北海道胆振東部地震でのエネルギー供給に係る対応と課題」

土田 裕二氏（北海道電力株式会社 火力部 火力保守技術グループ）
「北海道胆振東部地震発生に伴う停電発生時および復旧時の対応状況」

中村 琢郎氏（北海道ガス株式会社 導管計画部 計画推進グループ）
「都市ガス供給における現状、災害時対応、今後の展望」

上記のご講演者の方には、現場の方が熱工学に関連する事項で本当に困っていること、学に求めていることを、書類には残せないけど、その場限りで率直にご説明していただき、その機会を通して産学連携のきっかけにする、という熱工学ワークショップのコンセプトをご説明し、ご講演をお引き受けいただきました。従いまして、ご講演内容を本報告書に詳しく記載することはできません。各ご講演者から、北海道胆振東部地震もしくはこれまでの災害時におけるエネルギー供給に関して、人的・技術的課題と対策について、ご講演をしていただき、その後、30 分ほど全参加者を交えたディスカッションを行いました。複数の先生から、「普段、聞くことができない話を聞くことができ、有意義だった。」とのコメントをいただき、責任者として、開催して良かったと安堵いたしました。皆様のご研究の一助になっていれば、幸いです。